

指定管理者評価シート

一 管理運営の状況

1 施設名	仙台市東長町児童館
2 指定管理者	特定非営利活動法人ワーカーズコープ
3 指定期間	平成29年4月1日から令和4年3月31日まで
4 施設の利用状況	《利用者数》 24,189 人 (前年度比 71.0 %) 令和元年度 34,058人 平成30年度 34,043人 平成29年度 33,848人
	《事業》 児童に健全な遊びを与え、その健康を増進し、情操を豊かにすることを目的とした児童厚生施設としての事業
5 収支の状況	《費用》 ()は前年度決算額 ・ 指定管理者に支払った費用 58,688 千円 (47,110 千円) ・ その他市が負担した費用 0千円 (0千円)
	《収入》 ・ 使用料収入 0千円 (0千円) ・ その他収入 0千円 (0千円)
6 利用者の声	《実施状況》 利用者アンケート、児童館運営委員会、児童クラブ保護者会を実施。

二 管理運営に係る評価

(モニタリングシートの結果によって評価)

評価分野	所見	評価
I 総則	「児童館ガイドライン」等に基づき、設置目的を踏まえた施設運営上の基本方針を定め、職員への共通理解を図るとともに、館内掲示等で利用者にも周知している。職員の倫理保持・服務規律遵守については、研修や会議で確認する取り組みを行っている。また、地域の特性やニーズを踏まえながら各事業に取り組み、施設目的の達成に努めている。	33/33
II 施設の運営管理体制	職員の配置や業務内容の共有、開館の実績、経理書類の作成、個人情報の保護等について適切な管理体制が構築されている。また、各種マニュアルの整備、施設内外の点検、毎月の避難訓練等の実施により、利用者の安全に留意した運営に取り組んでいる。	30/30
III 施設・設備の維持管理	日常的・定期的な点検や清掃により、建物・設備・外構等が適切に維持管理されている。備品や鍵の管理も適切に行われているほか、施設内外の巡回や仙台市環境行動計画に則った取り組みも実施されており、安全で快適な環境が保たれている。	23/23
IV サービスの質の向上	名札の着用、児童館だよりの発行による利用情報の提供等、利用者が利用しやすい環境づくりに努めている。また、各種研修会への参加を通して職員の専門性を高めているほか、意見箱の設置、アンケートの実施等で利用者のニーズを把握し、施設運営に生かすなど、サービスの質の向上に努めている。	28/28
V 施設固有の基準	児童クラブにおいては、子ども達が安心して過ごせる生活の場を整え、学校を中心に各関係機関と連携して育成支援に取り組んでいる。また、乳幼児親子向けの行事開催や交流の場の提供により子育て家庭を支援すると共に、小中高生に対して、発達段階に応じた遊びの指導や活動支援を行っている。今年度においては地域との交流事業が多く休止されたが、日頃の情報交換や様々な工夫を凝らした事業で地域連携の保持に努めている。	18/18

三 評価総括

《指定管理者（特定非営利活動法人ワーカーズコープ）による自己評価》
<p>コロナ禍“子どもたちをまん中に”した取り組みを職員間で模索した1年でした。また、定期的な館内消毒や来館時の手洗いや手指消毒を徹底し、マスク着用の声がけ等感染防止に努めました。</p> <p>【児童健全育成事業】 児童館と繋がっているよ、という気持ちを込め、児童館だよりを用いて塗り絵やイラスト、短歌などを募集し館内に掲示をしたり、おうち時間が少しでも楽しくなるよう簡単おやつレシピを掲載しました。また、中学生がサテライトにきて、学校のこと等話していく姿も見られました。</p> <p>【子育て家庭支援事業】 地域の方々のお力をいただき、おはなし会、ママヨガ、ベビマを行い、保護者がほっとできる時間としました。支援クラブとの共催でハロウィンパーティを実施、親子で楽しむことができました。</p> <p>【地域交流推進事業】 近隣の施設に子どもたちが手作りしてクリスマスプレゼントを贈呈しました。グループホームでは家族との面会も制限されているようで、とても喜んでくださいました。また、小学校長をはじめ、地域の方々が児童館に足を運んでくれ、子どもたちの様子を気にかけてくださいました。</p> <p>【放課後児童健全育成事業】 なかなか会えないけれど待っているよ、という気持ちを込め、年度当初児童クラブ登録児童にあて往復はがきを送り、イラストや塗り絵を返信してもらいクラブ室に掲示しました。感染対策としておもちゃの貸し出しは禁止とし、工作キットを持参してもらったことで、考えて遊ぶ、工夫して遊ぶ力が身についたように思います。</p> <p>天気がいい日は極力外遊びをし、室内では簡単工作、手芸を行い、図書の本を充実させるなど子どもたちがストレスを感じないような対応を心掛けました。</p> <p>感染対策をはかりながらクリスマス会、大掃除、出発式を実施。1年生も恒例になっている児童館行事を楽しむことができました。</p>

《施設設置者（仙台市）による評価》	総合評価
<p>令和2年度は、コロナ感染症の影響で緊急事態宣言が4月に発令され、小学校が5月まで休校となったが、休校中も児童クラブの受け入れを行った。この間、乳幼児親子の自由来館及び小学生の自由来館を休止していたが、その後、乳幼児親子の自由来館は6月から平日午前のみ再開し、小学生の自由来館は10月から土曜日のみ再開した。感染症対策のための参加人数の制限や環境の工夫を行うなど様々な配慮と努力を要した児童館運営となった。</p> <p>放課後児童健全育成事業として、児童館としては制限の多いコロナ禍において新たな取り組みに挑戦した。感染防止の観点から児童館での玩具の使用をやめ、家庭からお道具箱を持参してもらい廃材工作や折り紙、新聞紙遊びを中心に活動した。その他にも児童クラブ行事を充実させ、アマビエのちぎり絵製作や高学年企画の宝さがしなど、子どもの参画を大切に遊びの計画を行った。職員間でも子ども達の遊びを豊かにするため遊びのスキルアップを目指し、豊かな遊びの経験を提供できるように努めた。恒例の事業となっているおやじの会との共催行事は開催が危ぶまれたが、児童館単体での開催を決定し、「アフタヌーンin児童館」として三年生の子ども達を対象に親子で陶芸体験を行うなど、豊かな遊びの機会を提供した。また、自由来館が制限され、児童館に来ることの出来ない子ども達との繋がりを保ちたいと「児童館だより」を利用して「短歌」や「ぬり絵」、「イラスト」「4コマ漫画」を募集し、館内に掲示したりお便りに掲載するなど工夫を凝らした。</p> <p>子育て家庭支援事業としては、例年は登録制の幼児クラブとしていた「マーチっこクラブ」を申込制として、ハロウィンパーティーをしたり、「ママヨガ」「ベビーマッサージ」を感染拡大防止に努めながら開催し、子育てのリフレッシュの場を提供した。</p> <p>地域交流としての活動は難しかったが、地域の施設に子ども達の手作りプレゼントを贈るなどして交流を図り、地域の連携維持に努めた。</p>	S

四 その他特記事項

（上記評価項目の他に、指定管理者の優れた取組み等、特に記載すべき事項があれば記載する）

特記事項